

日立システムズ「タテからヨコに発想切り替え」 連結サービスで業務効率化

ワークスタイル最前線

声を分析することで、心の健康状態が数値化できる最新技術が注目されている。日立システムズ（東京都品川区）がメンタル疾患の予防や早期発見を目的に提供しているクラウドサービス「音声こころ分析サービス」は、働き方改革、健康経営という大きな潮流を受け、伸長が見込める期待のサービスだ。

同社が狙う働き方改革関連サービスは、こうした単一サービスを売ることだけにとどまらず、複数のサービスをつないで業務全体を効率化することにある。営業、システムエンジニア（SE）、総務、人事、調達など社内のさまざまな部門の経験、蓄積をもとに、「連結サービス」を顧客に届けるという新しい試みに挑み始めている。

全体支援の難しさ

同社は来月14日、「働き方改革ソリューションフェア2019」を都内で開催する。同フ



メンタル疾患を早期発見できる「音声こころ分析サービス」

エアは半年に一度の頻度で開催しており、今回は前回の3倍以上の約500人の顧客やパートナー企業の担当者らを招く。

産業・流通営業統括本部第一営業本部の中田龍二本部長は「当社で導入した働き方改革のソリューションについて、いいことだけじゃなくて苦労したこともつまびらかにお示します。当日は、普段こうした営業の場に登場しない総務部の人間が取

り組みを講演する」と話す。

こうしたフェアなどで顧客と交流する中で、同社は単一のサービスで一部分の最適化支援をできるが、業務全体を支援する難しさに気づいた。いかに業務全体の最適化を支援できるかを考えた結果、業務の連携が不可欠と判断した。中田本部長は「タテ（単一）のサービスから、ヨコのサービスに発想を切り替えた」と語る。

その一つが総合経費管理システム「Traveler'sWAN」。さまざまなシステムと連携するための仕組みを実装しており、多くの連携実績もある。また、「Traveler'sWAN」以外にも、昨年3月には会計・財務のプロフェッショナル集団であるグローウィン・パートナーズと協業して、経理・財務部門向けの業務変革サービスの提供を開始した。

多目的オフィス開設

日立システムズがこうした新たな形態でサービスを提供するにあたって、今後強力な武器になりそうなのが昨年11月に本社地区事業所内に開設した「Connect SMILE[∞] LABO」だ。働き方改革、健康経営につながるさまざまな要素をちりばめた多目的オフィスで、同社やパートナー企業の製品・サービスの実証の場として活用するほか、実証結果については順次製品やサービスに反映することを狙っている。前出の「音声こころ分析サービス」やパートナー企業であるタニタグループの体組成計、血圧計も設置してある。

産業・流通フィールドサービス事業グループファシリティ事業部の早川正昭主管技師長は「従業員が使うことで知見が蓄えられ、それをフィードバックしてさらに良い製品、サービス開発に進化させていく。これを繰り返すことで競争力のある『連結サービス』をどんどん世に出していきたい」と強調する。